

企画展「上田道三 彦根の歴史風景を描く」展示作品リスト

通番	作品名称	員数	制作者	制作年	所蔵者
1 画学の徒 ～風景画家 不染鉄のもとで～					
1	思い出の大和路	1面	上田道三	昭和44-58年頃(1969-83頃)	個人
2	棚田風景	1面	上田道三	昭和3-6年頃(1928-31頃)	個人
3	農村風景	2枚	上田道三	昭和3-6年頃(1928-31頃)	個人
参考	(写真) 山海図絵 (伊豆の追憶)	1枚	不染鉄	大正14年 (1925年)	木下美術館
4	風景画卷	1巻	不染鉄	昭和2-4年頃(1927-29頃)	個人
5	年賀状	1枚	不染鉄	昭和時代	個人
6	海辺の村	1面	上田道三	昭和2-4年頃(1927-29頃)	滋賀県立美術館
7	湘南風景	1面	上田道三	昭和4年(1929)	滋賀県立美術館
8	伊豆三宅島写生	1枚	上田道三	昭和6年(1931)	個人
9	山陰の山村	1面	上田道三	昭和3-6年頃(1929-31頃) * 彩色は昭和46年6月	個人
2 京都画壇への挑戦 ～若き風景画家としての活躍～					
10	水路	1面	上田道三	昭和14年(1939)	京都市美術館
11	小野小町九相図	1巻	上田道三 中島悠翠	昭和10-13年頃(1935-38)	京都市立芸術大学芸術資料館
12	小野小町図	1幅	上田道三	昭和10年(1935)	個人
参考	京都市立絵画専門学校卒業制作図集	1冊		昭和10年(1935)	個人
13	下絵「風景」	1枚	上田道三	昭和9-10年(1934-35)	個人
14	スケッチ「鳩」	1枚	上田道三	昭和15年(1940)	個人
15	スケッチ「ネギ坊主」	1枚	上田道三	昭和14年頃(1939頃)	個人
16	下絵「多賀大社」	1枚	上田道三	昭和15年(1940)	個人
17	下絵「瀬戸風景」	1枚	上田道三	昭和12年頃(1937頃)	個人
18	スケッチ「志摩風景」	2枚	上田道三	昭和14年(1939)	個人
19	草稿「田園人物風景」	1枚	上田道三	昭和14-20年頃(1939-45頃)	個人
20	石切場	2曲1隻	上田道三	昭和12-20年頃(1937-45頃)	個人
21	波切風景	1幅	上田道三	昭和14-21年頃(1939-46頃)	星野画廊
22	テニスコート	1面	上田道三	昭和10-14年頃(1935-39頃)	彦根市文化財課
23	草稿「彦根城」	1枚	上田道三	昭和14-20年頃(1939-45頃)	個人
24	草稿「彦根港湾」	1枚	上田道三	昭和10-14年頃(1935-39頃)	個人
3 郷土の画家 ～彦根の歴史風景を描く～					
25	彦根城 (現在の彦根港湾より城山を望む スケッチ)	1面	上田道三	昭和30年頃(1955頃)	彦根市文化財課
26	彦根城 (城西小学校屋上より現在の城山スケッチ)	1面	上田道三	昭和30年頃(1955頃)	彦根市文化財課
27	彦根城原形南面図 (習作)	1面	上田道三	昭和30年頃(1955頃)	彦根市文化財課
28	「彦根城絵巻」構想下図	一括	上田道三	昭和33-37年頃(1958-62頃)	個人
29	彦根城廓旧観図	1面	上田道三	昭和33年(1958)	彦根城博物館
30	彦根城廓旧観図	1面	上田道三	昭和33年(1958)	彦根市文化財課
31	槻御殿旧景	1面	上田道三	昭和33年(1958)	彦根市文化財課
32	彦根有名民家「出口家」	1面	上田道三	昭和32年頃(1957頃)	彦根市文化財課
33	埋木舎全構造絵巻の内 「埋木舎旧外観」 「玄関より門を望む」 「現在の埋木舎間取図」	1面	上田道三	昭和32年(1957)	彦根市文化財課

34	武家屋敷及び古民家絵巻の内 「長屋門構造比較」 「脇伊織長屋跡」 「西郷伊豫長屋門」	1面	上田道三	昭和32-33年(1957-58)	彦根市文化財課
35	武家屋敷及び古民家絵巻の内 「足軽屋敷の部」	1面	上田道三	昭和33年頃(1958頃)	彦根市文化財課
36	武家屋敷及び古民家絵巻の内 「松原式妻入三図」 「松原水主町絵図」	1面	上田道三	昭和33年頃(1958頃)	彦根市文化財課
37	武家屋敷及び古民家絵巻の内 「芹中町若林久平店」 「七曲三軒茶屋跡・川浪長太夫店跡」	1面	上田道三	昭和33-43年頃(1958-68頃)	彦根市文化財課
38	武家屋敷及び古民家絵巻の内 「職人町の曲り角屋」 「湖東焼 絹屋半兵衛」 「納屋七魚問屋跡」	1面	上田道三	昭和31-34年(1956-59)	彦根市文化財課
39	武家屋敷及び古民家絵巻の内 「城下町周辺の農家」	1面	上田道三	昭和32年(1957)	彦根市文化財課
40	新聞連載「とお・むかし」スクラップブック	4冊		昭和47年(1972)	個人
41	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「山の湯（明治の風呂屋）」	1面	上田道三	昭和35-47年頃(1960-72頃)	彦根市文化財課
42	「明治六年 彦根土橋町辻の図（三階建かしわ屋、牛肉すき焼村田屋、彦根郵便局電話交換室）」				
43	「明治の看板（まからずや、西川弥太郎洋服調進所ほか）」				
44	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「牛肉販売とすき焼き店小倉亭」	1面 【10/8～21のみ展示】			
45	「彦根 城下町商家町並（旧彦根一番町 伏見屋呉服店付近）」				
46	「彦根 真綿五香本舗 羆寿堂」				
47	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「彦根川原町 親玉饅頭 加藤親玉店」	1面			
48	「彦根 城下町商家町並（旧橋本町通り 壇治商店ほか）」	1面			
49	「彦根駅前楽々館旅館」				
50	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「彦根波止場と大洞」				
51	「近江鉄道本社」	1面			
52	「彦根駅」				
53	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「彦根中学校」		1面 【10/22～11/7のみ展示】		
54	「彦根高等女学校」				
55	「彦根博覧会」				

56	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「坂田郡柏原 さらし綿製造販売山 根商店」	1面	上田道三	昭和35-47年頃(1960-72頃)	彦根市文化財課
57	「坂田郡柏原 伊吹もぐさと軍中散 本家亀屋」	【10/8~21 のみ展示】			
58	「中山道醒ヶ井宿」				
59	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「明治初期の手織機」	1面			
60	「長浜市余呉町 菊水飴製造元 平野 市助」	【10/22~ 11/7のみ展 示】			
61	「木ノ本旧本陣 薬局竹内五左衛門 邸」				
62	シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち 「明治初期滋賀木造三階建の図（両 儀勇八郎本店、湖雲楼）」	1面			
63	「高島硯製造販売所」				
64	「高島郡 木材回漕問屋 響庭安次 郎」				
65	古民家画「丁子屋 近藤市衛門店」	1枚	上田道三	昭和47-55年頃(1972-80頃)	個人
66	古民家画「犬上郡大堀村 北川新七 店」	1枚	上田道三	昭和47-55年頃(1972-80頃)	個人
67	研究ノート・論文原稿	1括	上田道三	昭和35-40年頃(1960-65頃)	個人
68	佐和山古城図	1面	上田道三	昭和35年(1960)	彦根市文化財課
69	桜田変井伊家供立図	1面	上田道三	昭和42年(1967)	彦根城博物館
70	近江八景	1面	上田道三	昭和46-58年頃(1971-83頃)	個人
71	松原内湖	1面	上田道三	昭和46-58年頃(1971-83頃)	個人
72	彦根十境	2幅	上田道三	昭和46-58年頃(1971-83頃)	個人
参考	上田道三写真	5枚		昭和時代	個人
73	染付珈琲カップ	1式	幹山伝七	明治時代	個人
74	青紫釉花生	1口	山崎光洋	昭和時代	個人
75	漆絵盆「彦根城」・「大和路」	各1枚（計2 枚）	上田道三 （絵付）	昭和46-58年頃(1971-83頃)	個人
76	松	2曲1隻	上田道三	昭和35-45年頃(1960-70頃)	個人
77	鮎	1枚	上田道三	昭和46-58年頃(1971-83頃)	個人
78	芭蕉門下の彦根二俳人	1枚	上田道三	昭和46-58年頃(1971-83頃)	個人
79	蟹	1幅	上田道三	昭和46年(1971)	個人
80	立雛	1幅	上田道三	昭和43年(1968)	個人
81	カトレア	1面	上田道三	昭和58年(1983)	個人
82	写生帖	1冊	上田道三	昭和58年(1983)	個人
参考	展覧会ちらし・アルバム	1括		昭和時代	個人

## 写真解説

### 1 湘南風景 1面(作品リストNO.7)

縦67.0cm 横152.5cm

昭和4年(1929)

滋賀県立美術館蔵



昭和4年(1929)、道三21歳頃の作品。湘南(神奈川県)の海辺の村落を描いています。

道三は、昭和2年(1927)頃に新進気鋭の日本画家、不染鉄(本名哲治)(1891-1976)の内弟子となり、絵を学びました。不染鉄は湘南の風景を愛し、繰り返し訪れて同地の海沿いの村や漁船を描きました。道三がこの地を題材に本作を描いたのも、不染の影響によるものと考えられます。本作は、描線に硬さがあるものの、不染の作品の特徴とされる巧みな俯瞰構図と濃密な細密描写の強い影響が見られます。後に道三が制作に打ち込んだ彦根の風景画の俯瞰的な構図法や細密な線描には不染の影響があり、この頃に培われた画風が後の道三作品の基盤となったといえます。

なお本作は、第10回中央美術展の入選作品です。中央美術展は、大正9年(1920)から昭和11年(1936)まで開催された民間主催の展覧会で、当時の著名な画家の多くがこの展覧会に入選しており、道三もまた、この入選を機に本格的な画家への第一歩を踏み出すこととなりました。

\*写真提供は滋賀県立美術館です。

\*写真を利用される際は、作品キャプションとして、写真提供：滋賀県立美術館と明記して下さい。

## 2 <sup>すいろ</sup>水路 1面(作品リストNO.10)

縦167.0cm 横92.5cm

昭和14年(1939)

京都市美術館/Kyoto Museum of Art 蔵

昭和14年(1939)、道三31歳の年の作品。京都市内を流れる疎水<sup>そすい</sup>を大きく捉え、<sup>たんぽぽ</sup>蒲公英が咲くうららかな春の景を描いています。

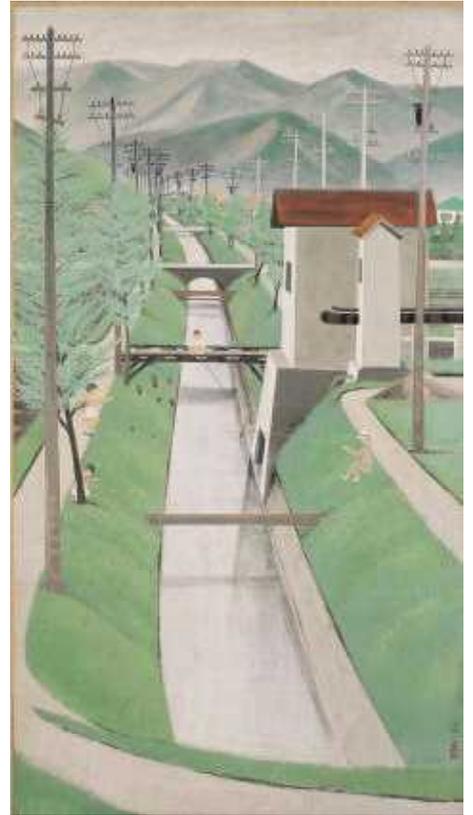
昭和7年(1932)、23歳で道三は京都市立絵画専門学校選科に入学し、昭和10年に卒業した後は同校研究科に進みました。研究科入学と同時に、当時の京都画壇の巨匠、<sup>なかむらだいさぶろう</sup>中村大三郎(1898-1947)の画塾に入りました。

大三郎画塾は自由な指導方針に特色があり、塾生本人の志向と個性を伸ばすことを主眼に指導が行われました。そのため師匠が専門とした美人画を描く塾生は少なく、「洋画礼賛系」とも評された洋画風の風景画を描く塾生が特に活躍していました。当時の道三もやはり、洋画風の風景画の制作に注力しました。

本作はその代表作と言えるもので、単純化した形と色で大胆に風景を表現しており、細かな描線を重ねる初期の道三作品とは大きく異なる印象を与えます。中村大三郎画塾の創立7周年展の出品作です。

\*写真提供は京都市美術館/Kyoto Museum of Artです。

\*写真を利用される際は、作品キャプションとして、写真提供：京都市美術館/Kyoto Museum of Artと明記して下さい。



## 3 <sup>ひこね じょうかくきゆうかんず</sup>彦根城廓旧観図 1面(作品リストNO.29)

縦171.0cm 横186.0cm

昭和33年(1958)

本館蔵(井伊家伝来資料)

彦根城<sup>おおて</sup>を大手側から見た景を描いた作品。壮大な俯瞰構図と細密な描写が共存した迫力ある表現です。

昭和21年(1946)に京都を引き上げて彦根に帰郷した道三は、昭和25年頃からスケッチブックを持って彦根城に通い、天守や櫓などの城内のさまざまな場所をスケッチするようになりました。次第に道三の関心は彦根城のかつての姿に向かい、写生に加えて、古絵図や古文書なども参考に江戸時代の姿を復元する「彦根城廓旧観図」の制作に取り組むようになります。昭和30年(1955)にその第1号作が完成し、以後、道三はその大作を複数手がけました。本作はそのうちの1点で、井伊家の買い上げとなり、井伊家の私設美術館であった井伊美術館に収蔵されました。

本作は、明治初期に取り壊された御殿や櫓<sup>やぐら</sup>、戦中戦後に埋め立てられた松原内湖など、江戸時代の旧景がみごとに復元されています。彦根の歴史風景を愚直に描き続けた画家、道三の代表作といえる作品です。



4 武家屋敷及び古民家絵巻のうち  
「足軽屋敷の部」 1面(作品リストNO. 35)

縦26.2cm 横(総長)170.9cm

昭和33年頃(1958頃)

彦根市文化財課蔵



道三は、昭和30年頃(1955)から、彦根城廓旧観図の制作と並行して、彦根の古い武家屋敷や民家を訪ねてスケッチを重ねるようになります。道三は次第に、これらを単に写生するだけでは飽き足らず、重要な箇所を部分図にして描いたり、構造や家の歴史なども書き記すようになります。このように、外観だけでなく、その歴史なども丹念に調べて描き表した絵画を、道三は自ら「記録画」と称し、以後、継続してその制作に取り組むようになりました。



(部分)

このようにして描いた家は約七十軒を数え、「武家屋敷及び古民家絵巻集」として完結しました。本図は、総長は延べ百五十メートルにも及ぶ同絵巻集の一部で、彦根城の外堀の外に広がる足軽組屋敷を描いた作品です。

本図では、芹橋二丁目の旧足軽組屋敷と、各辻に見張りのために立てられた辻番所が描かれており、昭和32年から道三が住んだ家も描かれています。

5 シリーズ「画で見る明治の滋賀」のうち  
「山の湯(明治の風呂屋)」 1枚  
(作品リストNO. 41)

縦31.0cm 横41.0cm

昭和35~47年頃(1960~72年頃)

彦根市文化財課蔵

昭和47年(1972)7月11日から9月21日まで、朝日新聞滋賀版で県政百年記念企画として全60回で連載された「とお・むかし」の第1回、「山の湯(明治の風呂屋)」の原画です。この連載は、明治時代の滋賀県内の人々の生活を紹介する内容で、道三がその挿図を担当しました。



実はこの挿図の原画は、連載の12年前の昭和35年頃から描き始められたものでした。明治22年(1889)に出版された『県下農商工便覧』という銅版刷りの小冊子の挿絵を参考に描き始め、そのモデルとなった家屋を見に行ったり、古写真等も参考に調査を行い、制作を進めました。

道三は連載終了後も「画で見る明治の滋賀」のシリーズとして引き続き制作を行い、現在、120図近くの作品が残されています。

## 6 カトレア

(作品リストNO. 82「<sup>しゃせいじょう</sup>写生帖」1冊のうち)

縦24.5cm 横66.0cm

昭和58年(1983)

個人蔵

道三が親しく交際していた近所の<sup>やぎはら</sup>八木原医院の温室のカトレアを預かって描いた写生画。日本画家らしく柔らかな線描を駆使した作品で、最晩年の作です。「花は枯れるから急がなくちゃならないから疲れる」と言いながら描いていたと伝わります。

